

# 第2回 高梁市地域防災力向上委員会

令和2年2月25日（火）

15:00～

高梁市役所 大会議室

## 目 次

### (報告)

- ・ 第1回高梁市地域防災力向上委員会での主な意見について
- ・ マイ・タイムライン講習会の実施結果について

### (議題)

1. 高梁市地域防災力向上の取り組み体系について  
(令和2年度出水期までに行う事業について)
2. 自主防災組織の設立支援ワークショップについて
3. 市民向け・自主防災組織向けアンケートについて

# 第1回高梁市地域防災力向上委員会での主な意見



- 第1回委員会では、委嘱式の後、三村委員が委員長に、氏原委員が副委員長に任命された。
- 地域防災力向上の課題と方向性について事務局の案を説明し、委員の皆様と認識の共有を行うとともに、地域防災に関して幅広く意見をいただいた。

## ○第1回高梁市地域防災力向上委員会

日時：令和元年11月26日（火） 午前10時から12時

場所：高梁市図書館 4階多目的室

出席：16名（全18名）



第1回委員会の様子

## ○委員会での主な意見

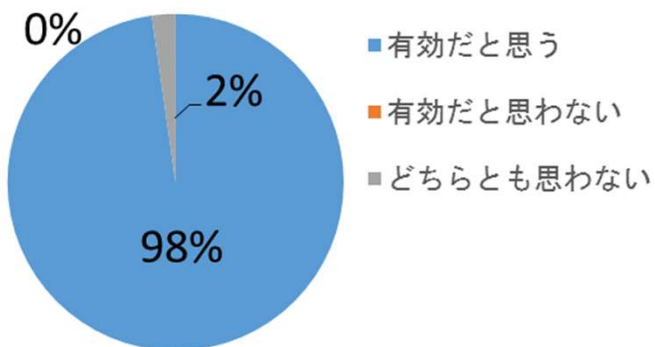
- 自助・共助・公助が具体的に何なのかきちんと最初に考えておかないといけない。
- この委員会の目標・着地点が分かりにくい。指導・助言をすればいいのか何かを作るのかその辺りをはっきりさせた方がよい。
- 市民の方が主役であり、こういうことをやっているのだという雰囲気を市民に伝えてほしい。
- 地域の状況を反映する必要があるが、大学があるので若い人とのコラボや、外国人もいるので多言語での情報提供も考えられないか。
- 市全体の中で地区によりレベルが違うので、それぞれの地域の特性を考えながら考えていくことが大事だ。
- 主体は住民一人ひとりだが、避難が大変な人もいるので、自主防災組織を立ち上げないといけない。
- 高梁地域は自主防災の組織率が低いですが、消防団がリーダーとなり地域を見守っている。自主防災組織の立ち上げも大事だが、消防団がそうした方々を支える仕組みを作ることが大事ではないか。
- 避難計画やマイ・タイムラインは、若い世代や、元々その地域に住んでいなかった世帯に特に必要ではないか。

# マイ・タイムライン講習会の実施結果について

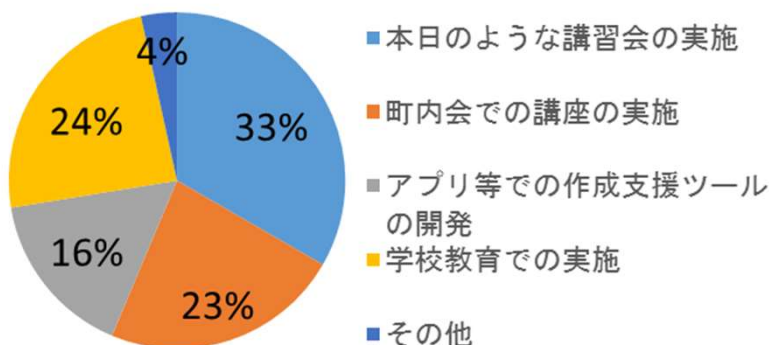
- 的確な避難行動の実現に向けた普及啓発事業として、市民向けと市職員向けのマイ・タイムライン講習会を開催。
- 市民向け(12月1日開催)は52名が参加、職員向け(11月29日開催)は59名が参加した。
- 実施後、自主防災組織や町内会からマイ・タイムラインの講習を希望する声が出るなど、良い反響があった。

## ○市民向けマイ・タイムライン講習会のアンケート結果

洪水からの逃げ遅れゼロに対して、マイ・タイムラインは有効だと思いますか。



マイ・タイムラインを広めるためには、どんな方法が良いと思いますか。

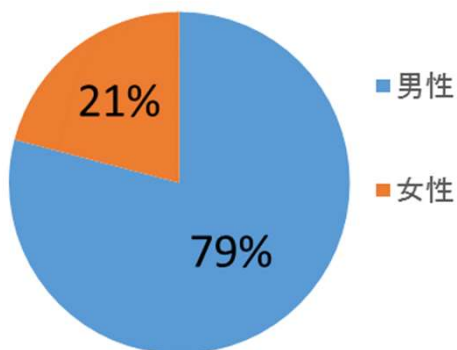


市民向け講習会の様子

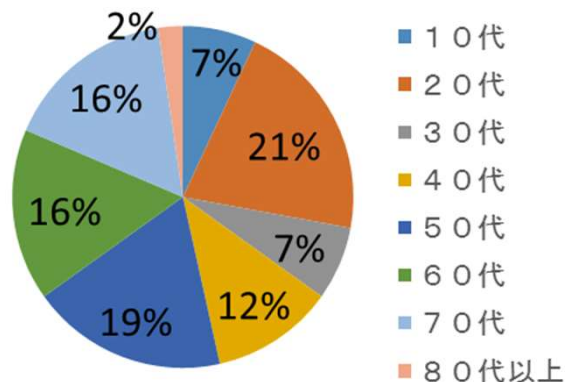


職員向け講習会の様子

性別



年齢



アンケート対象：  
52名(参加者)  
回答数:47名  
(回答率:90%)



使用教材(逃げキット)

# 高梁市地域防災力向上の取り組み体系について



- 住民一人一人が自ら行う防災活動(自助)、自主防災組織、消防団、水防団その他の地域における多様な主体が行う防災活動(共助)、行政が行う防災活動(公助)のそれぞれの目指すべき姿の実現に向けた取組をとりまとめる。

目標	項目	目標の方向性	課題	取組の方向性	取組の目標	具体的な取組内容
市民一人ひとりが自らの命を守る行動がとれる	市民(自助)	自分自身や家族の命を守るために、 <b>市民一人ひとりが自ら判断して避難行動</b> を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災情報の認知度が低い</li> <li>事前に避難行動を考えていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民一人ひとりが、居住地域の災害危険情報や防災行動に関して学ぶ。</li> <li>住民一人ひとりが、非常持ち出し、備蓄品の備えをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難行動を考えている人の割合(市民アンケートによる)</li> <li>複数の媒体で防災情報を入手している人の割合(市民アンケートによる)</li> <li>防災関連のイベントに毎年参加している人の割合(市民アンケートによる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイタイムライン講習会への参加</li> </ul>
	地域(共助)	市民一人ひとりの避難行動を後押しし、 <b>地域で互いに助け合って地域の安全を確保</b> する	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ機能が低下している</li> <li>市や防災組織間の情報共有がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域が、負担が少ない防災活動の事例などを参考にしながら、「できること」から始める。</li> <li>地域が、より大きな組織で連携して地域住民の防災力を向上するための体制をつくる。</li> <li>地域が、市と協力して連絡体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民同士の助け合いで出来る活動がある人の割合(市民アンケートによる)</li> <li>防災訓練を毎年行う自主防災組織の割合(自主防災組織アンケートによる)</li> <li>自主防災組織の結成割合(実績)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主防災組織連絡会の組織</li> <li>自主防災組織支援ワークショップの開催</li> </ul>
	行政(公助)	災害から市民の命が守られるよう、 <b>市民の適切な避難行動を促進</b> させるとともに、 <b>市の災害対処能力を向上</b> させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細やかな情報発信が求められる</li> <li>整備が必要な計画が多くある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市が、先行事例などを参考に情報伝達方法を改善する。</li> <li>市が、整備が必要な計画やマニュアルについて整理し、優先順が高いものから策定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市からの情報伝達に満足している人の割合(市民アンケートによる)</li> <li>計画、マニュアルの策定割合(実績)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所運営マニュアルの策定</li> <li>総合防災訓練の開催</li> <li>地域担当職員への防災研修の実施</li> </ul>

- 令和2年度出水期に入る5月末までに、優先して行う事業を整理する。  
【市民(自助)】1)マイタイムライン講習会の開催  
【地域(共助)】2)自主防災組織連絡会の組織  
【行政(公助)】3)避難所運営マニュアルの策定、4)総合防災訓練の実施

## 1. <マイタイムライン講習会の実施>

- マイタイムライン講習会の第2回目を西部地区で開催する。
- 職員向けの講習会も実施し、職員全体の防災意識の向上を図る。

### ○開催時期(案)

- 市民向け講習会 5月末 成羽文化センター
- 職員向け講習会 5月末 高梁市役所

### ○実施主体

- 高梁市、(一社)高梁青年会議所



## 2. <防災士・自主防災組織連絡会の開催>

- 各連絡会の設立に向けた第一歩として、地域の連携の方向性について意見交換を行う。

### ○開催時期

- 3月11日(水) 19:00~ 高梁市役所本庁舎3階大会議室

### ○対象者

- 市内の防災士 約40人、自主防災組織(消防協力隊も含む) 約50団体

### ○実施主体

- 高梁市

### ○内容

- 連絡会設立の趣旨説明(市)
- 防災講演(仮)(神田委員)

防災士・自主防災組織連絡会

防災士連絡会

自主防災組織  
連絡会

### 3. <避難所運営マニュアルの策定>

- ・内閣府の「避難所運営ガイドライン」や近隣市町村のマニュアル等を参考に、高梁市版の避難所運営マニュアルを策定する。
- ・市民が主体となって避難所の運営を行えるのが望ましいが、初動対応や短期災害の避難所対応では、市職員が対応する事を想定して策定する。



○避難所運営マニュアル(簡易版) — 市職員の初動対応用として想定

<内容>

避難所運営本部・市民課の確認事項を記載。  
(必要物品、設置方法、受付方法、確認事項など)

○高梁市避難所運営マニュアル — 避難所運営の指針となり、長期化も想定し、避難者自らが運営できるようにまとめる。

<内容>

避難所運営の流れを、災害発生当日から時系列で記載。

### 4. <総合防災訓練の開催>

- ・市が毎年行う訓練内容を拡充し、自主防災組織にも訓練参加を呼びかけ、避難所運営や情報共有を行う。

#### 例年実施



災害対策本部の様子  
(高梁市役所3階大会議室)



排水ポンプ車の使用訓練の様子  
(高梁小学校)

#### 新規実施



避難所運営訓練イメージ  
(写真:北山自主防災組織訓練)



# 自主防災組織の設立支援ワークショップ(WS)について



- 令和2年度から自主防災組織の設立支援として、モデル地区事業と相談会事業の2事業を実施する。

## ①モデル地区事業

・モデル地区を公募し、設立から活動まで支援を行う。活動実績は、別で設置する自主防災組織連絡会などで報告し、他組織を刺激することにより、防災活動の底上げを図る。

○成果目標：地域版マイタイムライン、地区防災計画、地域防災マップ など

第1回WS 地域防災講演 会	目的	<ul style="list-style-type: none"><li>地域での防災について考える</li><li>自主防災組織についての知識を高める</li></ul>
	プログラム	<ul style="list-style-type: none"><li>講座：地域の現状について（市）</li><li>講演：地域での防災について（講師）</li></ul>
第2回WS 災害図上訓練	目的	<ul style="list-style-type: none"><li>地域の状況を知り、災害時の避難経路等を把握する</li></ul>
	プログラム	<ul style="list-style-type: none"><li>災害図上訓練（市）</li></ul>
第3回WS まちあるき	目的	<ul style="list-style-type: none"><li>まちあるきを通し、地域の現状や災害時の状況などを把握する</li><li>災害時の避難経路等について把握し、防災訓練などに活用させる</li><li>3回のWSを通して、自主防災組織の今度の活動を検討する</li></ul>
	プログラム	<ul style="list-style-type: none"><li>講座：まちを歩いて、危険な場所を見つける</li><li>演習：自主防災組織としてどういう活動したらよいか考えよう</li></ul>

## ②相談会事業

・各地域の代表者や役員を集めて、相談会を実施する。令和2年度は、旧市町単位で全4回実施する。

## WSスケジュール





## モデル地区事業の公募方法(案)

### ○応募資格

原則として地区コミュニティ単位以上であって、自主防災組織の立ち上げを検討している地区または自主防災組織を設立している団体。

### ○対象地区の選定

応募書類を基に、高梁市が対象とする地区を選定。

### ○高梁市が選定した地区に対して行う業務内容

対象とする地区における支援内容は以下のとおりとする。  
ただし、内容は地区の状況に応じて変更する。

- 1 地域防災講演(自主防災組織についての知識を高める)
- 2 災害図上訓練(地域の状況を知り、災害時の避難経路等を把握する)
- 3 まちあるき(地域の現状や災害時の状況を把握する)
- 4 地区防災計画作成

### ○募集時期

令和2年3月から4月にかけて、1カ月間程度募集。

- 行動計画の目標設定や施策に反映させるため、市民向けと自主防災組織等に向けてアンケートを実施する。
- 実施時期は、3月上旬で、第3回委員会で結果を報告する。

## 自主防災組織等の実態に関するアンケート実施要領

1. 調査対象  
市内の自主防災組織等(防火クラブ含む)代表者約50名
2. 調査目的  
自主防災組織等の実態把握と支援方策などを検討する。
3. 調査項目  
自主防災組織の実態、活動実績、抱えている課題、必要な支援 など

## 防災に関する市民アンケート実施要領

1. 調査対象  
市内の20歳以上の男女で1000人を予定
2. 調査目的  
市民一人ひとりの災害対策に関する意識調査と、対策の実施状況ならびに対策が進まない理由について調査し、今後の災害被害の軽減をすすめ地域での防災力の向上のための参考とする。
3. 調査項目  
災害対策に関する意識、防災情報に関する意識、防災関連のイベントに関する意識、災害時の助け合いに関する意識、自主防災組織に関する実態 など